

# 向陽介護便り

平成19年11月 第20号

発行人: (有)向陽介護システムズ  
新宿区東五軒町1-12 青木ビル

TEL 03-3267-2015

## 映画とアルツハイマー

「ある日突然、毎日顔を合わせている仕事仲間の顔が思い出せなくなる。

ある日突然、通いなれた取引先の場所がどこだかわからなくなる。

自分は、まだ50歳だというのに・・・。」 広告代理店の仕事にも脂がのり、家庭円満、一人娘は結婚間近と、人生のまさに円熟期に突然『アルツハイマー病』を宣告された主人公は、日々こぼれ落ちていく”記憶”を何とかつなぎ止めようとしてもがき、苦しむ。

<第18回山本周五郎賞を受賞した小説(荻原浩 著)「明日の記憶」。 昨年の5月には、映画化され、主演の「渡辺 謙」さんは、日本アカデミー賞主演男優賞をとりました。>

「アルツハイマー病を発症した妻を殺害した警部。殺害の動機は、13歳でなくなった一人息子墓参りしたことすら忘れてしまう妻が、自分が自分で無くなる前に殺して欲しいと強くせがまれ(囑託殺人)・・・。 事件を担当した裁判官の実父もアルツハイマー病に罹っており、妻から自分がまともなうちに殺してくれと頼まれていたことを知り・・・。」

<第128回直木賞の最終選考過程まで残った小説(横山秀夫 著)「半落ち」。「寺尾 聡」主演で映画化され、2005年の日本アカデミー賞最優秀作品賞と主演男優賞に輝きました。>

私は、映画が大好きで、1年間に80本以上観たこともあります。何故、そんなに映画にのめり込むのかと尋ねられれば、「映画は、その時々世相や社会の関心事が抽出・炙り出され、それがスクリーンに映し出されているから」と答えます。

上の2本の映画(小説)は、ともに(若年性)アルツハイマー病を映画(小説)の素材に使っています。それだけ、この病気が私たちの身近になったということだと思います。

この病気「アルツハイマー病」は、近年突然急激に蔓延しだした感染症でもなければ、遺伝病でもありません。生活水準の向上と医療科学の進歩で、人類の平均寿命が延びたため、それまで顔を出す機会が与えられなかった病気が躍り出るチャンスを得たに過ぎないと云われています。5万年間、人類のほとんどは50歳以下で死んでいました。人口の大半が50歳以上まで生きられるようになった20世紀に入ってからだと云われています。前立腺ガン・乳ガン・筋萎縮性側索硬化症(ALS)そしてアルツハイマー病は、珍しい病気でした。ここ50年から100年の間に、長寿と引き換えに人々の周りに現れてきたと云われています。

「肉体よりも心が先に死ぬ」アルツハイマー病は、他の病気と異なり、介護を必要とする期間が長く、家族だけでなく社会全体に労力と経済的負担を支払わせます。まだ完全な治療薬は見つかっていません。様々な研究がなされていますが、食習慣が関係しているとする研究結果もあり、青魚や(DHA)緑黄色野菜(ポリフェノール、葉酸)を摂ることが認知症予防に効果があるとしています。飽(豊)食は、健やかな長寿の毒。摂生(節制)はまさに健やかな長寿の秘薬かもしれません。